

◆調査の概要

1. 調査目的

市民の食育に対する意識や食習慣等の実態を調査し、第2次宇都宮市食育推進計画（平成24年度から平成28年度までの5年間）の実践目標の達成状況の把握や各事業の方向性の検討のための基礎資料とする。

2. 調査設計

(1) 調査地域 宇都宮市全域

(2) 調査対象者

ア. 18歳以上の市民 : 3,000人

イ. 中学生・高校生 : 1,351人

ウ. 幼児・小学生の保護者 : 1,284人

(3) 調査方法

ア. 18歳以上の市民 : 郵送による配布・回収

イ. 中学生・高校生 : 学校を通じた配布・回収

ウ. 幼児・小学生の保護者 : 保育園・幼稚園・学校を通じた配布・回収

(4) 調査時期 平成26年6月

3. 回収結果

	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
一 般	3,000	1,354	1,354	45.1%
中学生・高校生	1,351	1,298	1,156	85.6%
幼児・小学生（保護者）	1,284	1,136	1,134	88.3%

*配布数、回収数は市外居住者を含む。そのうち市内居住者を有効回収数としている。

4. 報告書の見方

- (1) N (Number of cases の略) は、質問に対する回答者数であり、回答比率における100%に相当する。
- (2) 回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、単一選択式の質問においては、回答比率を合計しても100.0%にならないことがある。
- (3) 回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の比率を合計すると100.0%を超える。
- (4) 集計表や図では、選択肢の語句を一部簡略化してあらわしている。
- (5) クロス集計においては、表側にある設問（性別や年代別など）に無回答だった方の人数は記載していない。そのためNの値を足しあげても全体の値とは等しくならない。
- (6) クロス集計にある設問（性別や年代別など）では、Nの値が少なくなることがある。Nの値が少ないほどデータの正確さを保証するのは困難であるため、Nが少ないものについては参考として掲載し、数値をあげた具体的なコメントは割愛している。